

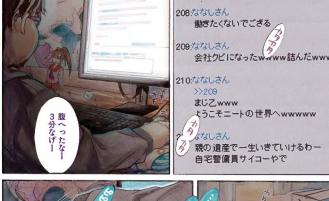




後悔しないように











































































































ロキシーのころを

私の生徒?



































































































やめてください

超えてしまいます恐らく私を簡単に生徒ですので













































## そしてロキシーが来てから2年が経った





























































































これは





























とこの子かあへぇ 君が

ロキシーちゃんの! ああ



外や人に対しての 恐怖心がすっかり

**グレイラットです!** ルーデウス・ はいっ!























































気がする 気がする 気がする



でのかよ でのかよ でのでのかよ































































































ひとりで責任をとるのは おかしい ましてリーリャの ましてリーリャの



## それに…







































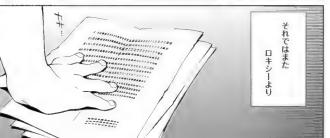
































## 著:理不尽な孫の手

緑色の髪。

まはがくぜんとした顔で私を見たものだ。生まれた当初、世間的には悪魔の髪と言われる髪で、生まれた当初、

は不貞をしてはいないと主張した。無論、妻が私のことは不貞をしてはいないと主張した。無論、妻が私のことを心の底から愛しているのは知っている。疑いなどしなかった。

私は長耳族のハーフだ。父親は定かではなく、母も自 分の出自については教えてくれなかった。ゆえに、シルフィ ケの出自については教えてくれなかった。ゆえに、シルフィ う。 私の血筋が問題なのだ、産んでくれてありがとう、と いうと妻は泣きだした。 まも、獣族の奴隷と、見知らぬ誰かの間にできた子供 された。

の子は愛情を掛けて育てようと神に誓ったものだ。 お互いに父親のわからぬ者同士で出会い、惹かれ合い、お互いに父親のわからぬ者同士で出会い、惹かれ合い、こ子供を産んだのだ。 私も泣いた。 みたりで泣きながら、こ

となく受け入れてほしい、と。うなずいてもらえたのは、も村のためにできることはするから、できれば害するこも村の髪は緑色だが、決してよからぬ存在ではない。私娘が生まれてから、私はすぐに村の男衆に相談した。

すくにらこう、ほ子な母系とを、てきこっとう言及ごった、一人で魔物を減らす仕事をしてかるパウロが来るまでた当初から住みつき、駐在験してあるパウロが来るまで、といったは、一人にらこう、私は村ができ

村人たちとも、良好な関係を築いてきた。その結果だ。うべきか、豊かな国は村人もおおらかであるらしい。うべきか、豊かな国は村人もおおらかであるらしい。

この村でなら、娘も健やかに育っていけるだろう。別の国なら世眷無用で進售を受けるところだ。

その時はそう楽観視していた。

**あれ、村人に受け入れられ始めた頃。** 五歳になった頃だ。ちょうど、聖赦魔術師ロキシーが村を 五歳になった頃だ。ちょうど、聖赦魔術師ロキシーが村を あれ、村人に受け入れられ始めた頃。

を持つ口半シーが魔族だ、という話が広まっ 育色の髪を持つロキシーが魔族だ、という話が広まっ 音色の髪を持つロキシーが魔族だ、という話が広まっ では、魔族はいつだって敵だ。村の子供たちも最初はロ までは、魔族はいつだって敵だ。村の子供たちも最初はロ きか、彼女は子供を軽くあしらう術を心得ていた。その ロキシーがいなくなり、代わりのように標的になったの が、緑色の髪を持つ娘だ。

腸が煮えくり返る思いだった。もっとも、いくら娘がや投げつけられ、時には棒を持って追い掛け回された。

か、と私は聞いた。だからまず、なぜそんなことをするのか、と私は聞いた。だからまず、なぜそんなことをするのか、と私は聞いた。

のは遊びだった。<br />
驚いたことに、子供にとって魔族を標的にするという

記室を投げて、棒を持って襲いかかって、その上であった。 し、大力リをするまでがセオリーだというのだ。娘にはられたフリをするまでがセオリーだというのだ。娘にはられたフリをするまでがセオリーだというのだ。娘にはさりとやられて逃げ出すか、ロキシーが気を利かせてやさりという。

をよ良の髪を、短く切り、<br />
逃げ、<br />
その後も、対処はしたのだ。

まは娘の髪を短く切り、逃げやすいようにとズボンを といった。髪を隠すために。 なけなしの金をはたいてフードつきの上着を買って行き、なけなしの金をはたいてフードつきの上着を買ってわった。髪を隠すために。

では、 大人たちは娘がやられていると助けてはくれたが、イ 大人たちは娘がやられていると助けてはくれたが、イ 大人たちが見ていないところで行われるようになり、 ひ薬はた人たちが見ていないところで行われるようになり、 ひ薬はた人たちに理解があるからマシなほうだろう。 この村は大人たちに理解があるからマシなほうだろう。 子供たちがもっと成長すれば分別もわきまえてくれるは ず、しかし娘にとってその数年は……と、妻と、緒に悩む ず、しかし娘にとってその数年は……と、妻と、緒に悩む ではないた。

昨晩の食卓でも、「今日はルディがね――」「明日もル昨晩の食卓でも、「今日はルディがね――」「明日もルとしか口にしなくなった。 としか口にしなくなった。

そんなある日、娘は唐突に、元気を取り戻した。

はあ

持ち回りで行われる見張りの最中に、パウロが声を掛け深夜。

知らぬ間に、ため息が漏れてしまっていたらしい。てきた。

騎士として村に駐在し、村の平和を守ってくれている。パウロはルーデウスの父親だ。「ああ、パウロさん」

「まぁ、話してみろよ、どうせ暇なんだし」「いえ、悩みというほどではないのですが」「悩みがあるなら聞くぜ?」

暇といえるのは、彼が並の剣士ではないからだ。

私は最近頭を悩ませていることについて、話してみるこ

おお、もう手伝わせてるのか、偉いな けたんですよ ころには帰ってきて準備を手伝ってあげて」と娘に言いつ 昨晩、妻が「明日はお父さんが見張り台にいくから、昼

デウスも、もう七歳だ。 パウロは感心したように頷いていたが、 シルフィもルー

五歳を過ぎたら家のことを少しずつ覚えさせていくの

が普通だと思うが……。いや、そもそもパウロは三歳の頃

からルーデウスに英才教育を受けさせているのだったか。

娘が帰ってきたのが、夕方頃だったんです」 で、それの何が問題なんだ? そう、最近娘は言いつけを守らなくなった。

い時間を忘れるってのは あー……でもま、よくあることだろ、遊んでたらついつ 一度ならいいんですがね、ここ最近、多いんですよ」

とも聞いてくれる。 しっかり叱って、次から気をつけさせればいいじゃない 何事もないときは、普通に手伝ってくれるし、言うこ

するだけで、あまり聞いてくれなくて」 叱っても「だってルディが……」と当然のように言い訳

ようになる頃、村の子どもたちに魔族だ敵だとはやし立 てられ標的にされていた娘を……。 はないんです。彼には、世話になっています」 ああ、いえ、別にルーデウス君が悪いと言いたいわけで 彼には娘を救ってもらった。五歳になって外を出歩く そう言うと、パウロは真顔になった。

そのことは感謝しているし、娘が彼に懐くのもわかる

しかし、本当にシルフィは言いわけが増えた。

ちは二の次に思われてしまっているかのようだ。 たはずなのに、最近ではルーデウスの言葉が絶対で、 五歳ぐらいの頃は私や妻の言うことを絶対だと思ってい

ということに、不安に思うところがありましてね」 「ただ、やっぱりあの歳で親の言うことを聞いてくれない えなかったのだから。

それも当然だろうか、なにせ私たちは辛いときに娘を救

パウロは難しい顔をしていた

「まあ、それももう数年すれば、変わるのかもしれません 何か思うところでもあるのだろうか

がね と親の言うことも聞いてくれるようになるだろう。 ほどに。でも、成長に従って分別がつくようになれば、きっ 親の言いつけを忘れてしまうほどに、言いつけを守らない 理由を尋ねると「だってルディが……」と彼の名前を出す 今の娘の頭の中にはルーデウスのことしかないのだろう。

だと……いいがな…… そのとき、パウロは怖い顔をしていた。

殺気すらあったように思う

このままじゃ、いけねえな…… パウロはポッリと意味深に言って、押し黙ってしまった。

張り番を終えた。 日の話となる。 この時、パウロが何を考えていたのかを私が知るのは後 そのまま、お互いに何も喋らず、重苦しい空気のまま見私もそんな彼の態度に気圧されるように言葉を失った。



## 無職転生がコミックになりました!

思えば、コミカライズしますと言われてもピンと来す、コンペのネームを見てもピンと来す、第1話の下描きまで見せてもらってようやく「あ、漫画になるんだ!」とピンと来たものです。1話の載ったコミックフラッパーが発売される頃には、そわそわと落ち着きなく近所の書店でフラッパーを探し、なくて、なくて、ようやく見つけて買って帰ってきたらすでに献本がうちに届いてた、なんてのもいい思い出ですね。そんな原作者が待ち望んだ漫画が、ついに単行本に!

嬉しい! ウレシー! ロキシー!



## コミックス1巻発売おめでとうございます!

フジカワユカ先生の描くキャラクターたちがかわいくてかわいくて毎月楽 しみに読んでおりました。自分のデザインしたキャラクターだちがびょん びょん動いたり、ふとした仕草をしているところを見るとニヤニヤしてしま います。シルフィかわいい! ロキシー神!

書籍版とはひと味違った漫画ならではの無職転生の世界、これからも楽し みにしております。



## 無職転生~異世界行ったら本気だす~1

2014年10月31日発行 ver.1.0

著 者 フジカワユカ

原 作 理不尽な孫の手

発行者 三坂泰二 編集長 池上昌平

発行所 株式会社KADOKAWA

〒102-8177

東京都千代田区富士見2-13-3

03-3238-8745(営業)

編集 メディアファクトリー

0570-002-001 (カスタマーサポートセンター)

年末年始を除く平日10:00~18:00まで

© Fujikawa Yuka 2014 , Rifujin na Magonote 2014 http://www.kadokawa.co.jp/

※無断で複製・複写・データ配信などをすることは、かたくお断りいたします。

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました

MFコミックス フラッパーシリーズ

無職転生~異世界行ったら本気だす~1

発行日 2014年10月31日 初版第一刷発行